

夜のうだつの町並み

あんどん風の街灯が町並みを悠然と照らします。ほのかに明かりは、より一層なつかしさを醸し出します。



うだつ

防火の役目を持つ建物の両側に張り出した小屋根付きの袖壁。財力の証・象徴として、装飾性を帯びて発達しました。



の代表的な産業として広が

り、交通の要衝として吉野川の



天正13年(1585)、蜂須賀家政が阿波に入国、筆頭家老の稲田植元が脇城に入城しました。植元は、織田信長が行った楽市・楽座に倣って、月に6回(3・7・13・17・23・27日)、市日とする「三七七の市」を開き、商人の出入りを自由化して町の活性化を図り、脇町は城下町として繁栄しました。

り、交通の要衝として吉野川の水運に恵まれた脇町は藍の集散地として栄えました。街道沿いには藍を扱う商家や呉服の商家が建ち並び、栄華を極めました。本瓦葺きの大屋根に、壁は厚い塗籠りで漆喰仕上げの重厚な造り。南町には商家の富や成功を物語る「うだつ」や虫籠窓などを備えた建物が今も残されています。昭和63年(1988)には国の重要伝統的建造物群保存地区に、平成19年(2007)には「美しい日本の歴史風土100選」に選定されました。

風情豊かな 「うだつの町」

かつて藍で栄えた美馬市・脇町。
商家が軒を連ねる静かなたたずまいには、
昔ながらの暮らしが息づいています。

私のまほろば 住人十色

先人が残してくれた文化遺産と、そこにある先人の思いを観光に求めた方々と共有し、後世に語り継ぐことが大切だと思っています。お客様に「うだつの町並みに来てよかった」と思ってもらえるよう、ボランティアガイドが団結し、おもてなしをしています。うだつの町に残された先人の知恵を掘り起こし、その魅力をお客様にも共感してもらおうと、Eを履いて、日々勉強しています。



脇町うだつの町並み
ボランティアガイド連絡会 会長
正木文子さん

うだつの町並み

先人の知恵が息づく文化遺産の町並み。建造物の部位一つ一つに役割があり、ボランティアガイドを中心に語り継がれています。